

ハスカップ商品の
変遷をたどるコー
ナーも

苫小牧のシンボル

ハスカップ 伝える

85点の資料多角的に

苫小牧市美術博物館の企画展「ハスカップ―原野の恵みと描かれた風景―」が13日、開幕した。苫小牧市民にとって身近なハスカップについて、人々の暮らしとの関わりや自然史的観点など、85点の資料を通して多角的に紹介。苫小牧に深く根付くハスカップの姿が生き生きと浮かび上がっている。3月13日まで。

苫小牧市美術博物館が企画展



今展では、古くから苫小牧に住む約75人の市民から寄せられた多くの証言などを基に、担当の小玉愛子学芸員がまとめた資料も並べている。家庭で作られていたハスカップの実際の塩漬けやハスカップ狩りに関しては、「使用したかめ、一斗缶も展示。『なます』に混ぜた料理を義母が作ってくれた『みんな、ハスカップが生えている』『秘密の場所』を持っていった」といった思い出をパネルにし、暮らしに深

市民の証言基に「ハスマップ」も

く根付いたハスカップの姿を伝えていくほか、市民の証言に基づいてかつてのハスカップの自生地をまとめた「ハスマップ」も展示している。ハスカップが「原野の植物」から栽培果樹に変化していった過程も関連商品と共に紹介。昭和初期に初めて加工品として製造販売された「ハスカップ羊羹（ようかん）」の菓子箱や、三星の「よいとまけ」の開発エピソードなどを楽しめる。NPO法人苫東環境コ

苫小牧の貴重な地域資源ハスカップを多角的に紹介



モンズの協力で、苫小牧東部

地域にある自生地の現状や、道内の分布状況なども植物標本と合わせて紹介。勇払原野を描いた絵画も会場を彩っている。

弥生町の平岡芳子さん(83)は「小さい頃に住んでいた前から勇払原野へハスカップをよく採りに行った。母が、シソにハスカップを幾つか包んで作る塩漬けがおいしくて。懐かしい気持ちになりました」と見入っていた。

午前9時半～午後5時。月曜休館。一般300円、高校生200円、中学生以

下無料。問い合わせは同館
電話0144(35)2505